



吉川新駅 9月議会報告 JRと覚書締結へ



市民改革クラブ 17
平成 19年 10月 2日発行

～ 23年度開業目標に～

< 新駅は2面3線、20年度概略・詳細設計 >

吉川市は9月議会の冒頭、JR東日本との協議を踏まえ、10月中に新駅設置に関する覚書(協定)を締結したいとの意向を表明。その骨子は、駅舎の形態は、折り返しの機能を有する2面3線とする 折り返し機能に必要な施設についてはJRが負担、それ以外は吉川市の負担 必要な用地は吉川市の責任で確保 20年度概略・詳細設計、新駅開業は23年度を目標とするとなっています。

< 資金捻出不透明で異論続出 >

覚書と武操跡地の年度内都市計画決定を前にして吉川市は9月9日住民集会をおあしすで開催。100人余が出席。資金の捻出は跡地所有の運輸機構に「出来る限りお願いをしている」との繰り返しの答弁に釈然としない 納得できない 判断のしようがないと不満、不信の声が噴出。こうした声も受けて議会で集中的に質疑。市民が安心し、得心できる説明と行政運営をと再三指摘し要望。これに対し市長は「最小の費用で最大の効果」が上がるよう、「限りなく負担を少なくゼロをめざしていく」との意向を明らかにしました。今後もきちんとチェックしていきます。

< 18年度決算、負担増で格差社会のカゲも >

9月は決算議会。歳入は一般会計173億8千万円。特別会計129億6千万円。単年度収支は合計で1億1千3百万円の黒字に。歳入については三位一体改革で交付税が税源移譲で補完はあるものの大幅減。市税は定率減税廃止(1/2)、老年者控除廃止もあり、1億4千万(1.9%)の増で75億3千万円に。この一方で市税(差押さえ547件)国保税(差押さえ310件)、給食費(157人)保育料(46人)などの未払い対策の強化。就学援助を必要とする要保護・準要保護の児童生徒は523人に達し、吉川でも格差社会のカゲが次第に深まりを見せています。

決算認定で5点の指摘 注文

18年度決算の主要施策成果表は人件費を含む事務事業評価を活用し、事業全体が見え易く、わかりやすくなった。職員に一定の評価をした上で以下5点の指摘をします。栄小はマンモス校化による2度のプレハブ建設と、児童の学校外への移設で、不安と混乱に。そのことについてどこにも記載がないのはおかしい。今年度補正予算による6教室の増設だけでも8千万円を超える財政負担で適切な取り組みがあればと大変残念です。使用料値上げによって、温水プールは利用者も収入も大幅減に。また東埼玉テクノポリス拡張事業は地権者の意向調査が遅れるなど実態把握が杜撰で大幅な遅れ。丁寧な現場状況の把握と対応による事業運営を求めます。指定管理者制度に移行した老人福祉センターは連合長寿会が運営に努力していますが、利用者減の対策、利用時間の延長など幅広い要望にこたえていけるよう市の指導と支援が必要。市民参画については人件費など経費削減のための単なる手段ではなく、市全体の活性化につなげることが大切です。関連して現在の補助金の一律カットは限界。市がやるべき真に必要なサービスとは何か、ゼロからの見直しのため、例外を設けない期限付き補助金助成制度の検討、導入を要望します。最後に、所得の低い人やハンディキャップを持つ人々への配慮をお願いします。滞納金の徴収策が強化されていますが、市民の声に充分耳を傾け、市民の生活再建を助ける、市民に一番近い行政窓口として丁寧な対応を強くお願いします。(あへ 民子)

市民改革クラブ

市民改革クラブ ホームページ開設
<http://www.geocities.jp/kaikakuclub/>

阿部 民子 中川台 12-105 TEL&FAX 981-4615
Eメール dora_dora@s3.dion.ne.jp
<http://www.k2.dion.ne.jp/~abetami/>
伊藤 正勝 きよみ野 2-8-2 TEL&FAX 983-1117
Eメール itoh72@nifty.com

9月議会を終って

いとう 地震対策、ナンシン移転、介護、多重債務 あべさんの質問と消防議会の定員減問題 決算討論はタイムリーで整理されて良かった あべ 4年間の任期最後の決算議会。卒業論文を書くつもりで準備して臨みましたが、ご教示いただいた有識者の市民の方の指摘や提案も十分紹介できず反省しています。

いとう 砂地で液状化現象の起こり易い吉川。中越と同じ土壌です。現庁舎は古く、安全基準を下回っている。避難場所の学校の体育館の多くも耐震基準に達していないとの問題提起ですね。

あべ 中越沖地震はよそごとではありません。水道、ガス、インフラの回復は予想以上に遅く、他山の石として調査し、備え、市民のために生かしてほしいと強く要望しました。

いとう ナンシンは私も初めて見学しましたが、大きな工場ですね。市民税、雇用、関係の取引企業のこと。転出後は物流の基地になるとの話でしたが

あべ 企業誘致を財源確保の柱に位置づけているのに既存の工場への目配り、情報はとても薄いです。東埼玉テクノポリスの拡張問題も、農地転用の許可がおりず、事実上ストップ状態。吉川では、企業誘致どころか増設の余地も全くないとの声が届いています。

あべ 新駅設置も覚書を締結するというのにその建設資金について十分な説明がありません。大事業です。少なくとも原則的考え方と見通しを明確にして進めてほしいです。

いとう 運輸機構への「お願い」も大切だけど、

例えば周辺地区整備は減歩率 50%の予定です。武操跡地も一体開発であれば当然 50%、新駅予定地前の JR グランドは 60%をこえる減歩率になる。都市機構（旧住宅公団）のきよみ野や駅南整備には事実上市税は投入されていません。こうしたことも参考にすべきです。

あべ 伊藤さんがゆるやかに指摘した、周辺地区の用地の一部を議員などが購入・売買していることも気をつけねばならないことですね。市民の通報を受けて夏休み半日かけて課税台帳を手分けして調べましたが、法律に違反しなくても「議員の立場」の自覚は必要ですよ。

いとう 吉川のキーワードは「土地」です。錬金術の対象であり、転用や開発をめぐって“亡者”がチャンスとうごめいています。

あべ 信頼を失うと開発整備に影響しかねません。市民の方々もしっかりと見つめていただきたいですね。

いとう 消防議会の定員減にはあきれました。吉川・松伏の共同での消防行政、吉川から6人松伏から5人が議会から選出されて消防議会を構成しています。行革で1人ずつ減らすとの提案でしたが、肝心の消防議会での論議は一切ナシ。月1万円余の手当2人分で25万円の減ということですが、消防行政は本来業務の一つ、消防議会全員の手当を半減しても市民の眼としての議員の数は維持すべきです。

あべ その立場で討論しましたが、自民・公明の会派が賛成。結局消防議会の吉川側議員は5人に減りました。これは行革ではなく、消防議会の機能低下を招くだけではないかと心配です。

あべ・いとうの

なんでもおしゃべり

10月6日(土)

午前10時～午後12時

おあしす多目的ホール

～新駅問題など

9月議会報告～

どなたでも

あとがき
福田新政権が発足。七月の参議院選挙で自民党が惨敗、安倍改造内閣、突然の辞任表明と猛暑の中政局は激動を続けました。30余年前の角福戦争、福田起夫内閣、そして康夫氏の実弟が大学のクラスメイトだったことや一緒に幹事長番をした当時の産経記者額賀氏が財務相に起用されたこともあり色々と思いつきながら見つめています。
当分政治の季節。有権者意識の地殻変動もありどんな展開ですすむことになるのか。まずは足元の吉川をお互いに少しでもいいまちにしたいと思っています。
9月15日と22日を中心に吉川では小、中学校の運動会が開催されました。中央中学校のマスゲーム「大地」はグラウンドに溢れた「動」の空気を一転して「静」に導く扇を使つてのしなやかな演技。一糸乱れぬみごとに大きな拍手が沸き感動に包まれて圧巻でした。
(いとう)

新駅問題は

もつとわかるように

いとう 正勝

新駅設置と武操跡地、周辺開発の問題は吉川市政最大のテーマ。新駅はJRと23年度開設の覚書（協定）を結ぶ直前、大きな山場です。それにしても資金計画もあいまいで、多くの市民がこれで大丈夫なのと懸念を示しています。 大事な住

民集会にトップの市長が何故出席しないのか、具体的に説明できない事情があつても、その事情や市長の決意を示して理解を求めるときではないか。新駅の受益者は限られた地域の人々で

【新駅設置スケジュール】吉川市公表

平成19年度	新駅設置に関わる調査設計(6月～H20.1月) 設置承認・覚書の締結(10月)
平成20年度	新駅設置に関わる概略設計・詳細設計
平成21年度	施行協定・工事着手(H21.4月)
平成23年度	新駅開業(H24.3月)

【跡地地区整備スケジュール】

平成19年度	市街化区域編入に伴う説明会(9/9) 都市計画案の縦覧(9/11～25) 公聴会の開催(10/18) 都市計画案の縦覧(12月) 市都市計画審議会の開催(12月) 県都市計画審議会の開催(H20.2月) 都市計画決定の告示(H20.3月)
平成20年度	事業認可

【周辺地区目標スケジュール】

平成20年度	都市計画手続き開始・埼玉県との調整
平成21年度	市街化区域編入に伴う説明会・公聴会 都市計画案の縦覧
平成22年度	都市計画審議会 都市計画決定告示

あり、財政状況からも現在の市民の税金は投入しないくらいの覚悟が必要ではないかと質問しました。これに対し市長は住民集会に出向いた部長や職員は市長の代わりであり、私が出席しなくても内容は伝わる。新駅設置の費用については、運輸機構（跡地所有）の責任ある立場の方々と会い、現在進めている調査設計費用の持分の関係（運輸機構9対、吉川

市1の割合）にみられるよう出る限り吉川市の負担が少ないようお願いしたいと申し入れている。吉川市のきびしい財政事情についてはご理解いただいていると確信している。情報の収集につとめ、責任をもつて「最小の負担で最大の効果」が発揮できるよう努めたいと答弁。

都市計画税は21年度に導入

都市計画税について市長は20年か21年度導入と3月議会での明言。20年なのか21年なのか、時期とともにその必要性を市民に説明してほしいと質問。これに対し市長は都市計画事業の状況を踏まえると21年度が導入の節目と考えている。導入する時には事前に目的や必要性を説明すると答弁。18～20年度の財政健全化3カ年計画の後も厳しい財政運営が続くと認識を示しました。

輝く 中曽根小

中曽根小の耐震、大規模改修が夏休み中にほぼ完了。市議会の文教委員会で9月10日その出来映えを視察した。はだ色の明るい校舎。森田敏子校長が「素晴らし

い校舎にしていたら」と笑顔を輝かせて案内してくれた。玄関、廊下、各教室。ドアも収納棚もエレベーターもみごとに「変身」。トイレは洋式、壁に大きな鏡、図書室は一番利用しやすい中央部、二階の木立ちが見える場所に移設。広さは2倍に。2学期の始業式の日、「子ども達は学校中を回りながら『すてい』『すてい』の連発でした」「PTAの要望や意見もたくさん取り入れていただいて」と喜びと感謝のご報告。傘立て、下駄箱、更衣室、職員室は「ガラス張り」に。細部にも目配り、どこにも「心が宿っている」。うれしさがこみあげてくる。学校訪問でした。次は北谷小の大改修関係の皆さんも地域の方々も公開日などに是非お出かけ下さい。

中越沖地震に学ぶ

防災 耐震を

あべ 民子

今回は防災と市内企業「ナンシン」の移転などを中心に介護予防、多重債務者問題、市民参画について質問しました。

7月中越沖地震に見舞われた柏崎市は昨年10月の震度7に続き2度目の被災。吉川市と同じ砂地盤、液状化による被害が大きく、上下水道やガスの復旧に時間がかかった。現地調査が必要ではと質問した。これに対して市民生活部長は昨年度地域防災計画を改定、今年度中に要援護者対策も含め自主防災組織と連携し具体的作業マニュアルを作る予定。中越沖地震被災地への視察は予定していないが、情報は収集し役立てたいと回答。

学校体育館の耐震は
教育長は建設年次からみて

体育館の耐震については心もとないが、本校舎の耐震改修を先行していく。来年度以降北谷小・南中・三輪野江小と順次23年までに整備完了させたい。その後には体育館と考えていると答弁。

新庁舎建設と

現庁舎敷地処分は

総務部長から現庁舎については先の質問で耐震基準を下回り安全性はきわめて低いとの答弁があった。新庁舎建設と現庁舎敷地処分は一体で考えるべきではないかとの質問には、財政問題もあり庁舎建設の時期は定まらないが、準備は進めている。リースで3階建て30億円との試算もある。建設手法とあわせ現庁舎敷地の再利用、賃貸、売却なども検討していきたい。

介護予防から

高齢者福祉の総合政策へ

和光市では介護予防の予

備調査を65歳以上の第一号被保険者全員に郵送し、高齢者福祉保険事業の基礎データとして活用している」ぜひ参考にしてと要望した。健康福祉部長から吉川市の介護予防事業の現状は基本検診受診者から介護予防の必要な特定高齢者を把握。現在68人。運動機能強化など地域支援事業への参加を呼びかける。要支援1と2の新予防給付対象者は46人と回答。対象者を早めに把握し介護予防で元気な高齢者を増やしたいものです。

改正介護保険法により

自己負担は平均24,445円の増

一昨年の改正により食費や居住費の自己負担化で療養型病床など施設利用者には重い負担。最高では4万円以上の増加。福祉用具の利用制限の影響を受けるのは10名、経過の見直しもあり、従前通り利用できているとのこと。

「ナンシン」の移転

栄町に昭和42年から操業。日本のキヤスター製造の25%を生産する優良企業です。来年11月末に工業団本林村に転出すると環境ネットの仲間から話を聞いて驚きました。

あべ 民子 も取得、エコーレンジや

環境標語にも会社を上げて取り組み、小中学生で社会科見学や体験学習に訪れた人も多いことでした。9月11日に訪問、工場長と本社の役員さんにお話を伺いました。工場の老朽化と拡張のための用地を探したが、市内、近隣では見つからず、現在の2万2千㎡の約3倍の土地と5年間の固定資産税免除という優遇策もあって転出を決断したとのこと。18年度法人市民税だけで920万円(固定資産税2千80万円)東埼玉テクノポリスの全体の法人市民税が約7千万円ですから、その貢献度がわかります。吉川在住の従業員も79人、市内関連企業は金瓶、金剛メッキなど20社、このような企業が転出してしまつのは誠に残念な思い、質問にも取り上げました。外から見ると、質問にも取り上げました。外から見るよりずっと広い工場内を案内していた時、私と同じマンションの女性から声を掛けられ、身近に働く人がいたことに地域との関わりの深さを感じました。(あべ)